

科目名 インテリア演習 I								
担当教員		清水 彩子		実務授業の有無		○		
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年		2	開講時期		前期
必修・選択		必修	単位数			時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通してインテリアコーディネーター資格の取得を目指す 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する。 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する。 3. インテリアコーディネーター資格試験対策。 4. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。						
学習目標 (到達目標)		①資格取得を目指す ②インテリアコーディネーターとして必要な実務知識、商品知識を習得する						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーター公式テキスト上、下巻 ②過去問題集 上、下巻						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	市場調査、建築とデザインの基礎 ①重要章：建築構造の基礎知識 実例をもとにした建築、デザインの基礎			方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①②の予習				
2	住宅の基本とコーディネート ①重要章：平面計画 内装材とその他の建材 ②実務に必要な知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①②の予習				
3	インテリア商材の基本とコーディネート ①最新の商品知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①②の予習				
4	表現技法と仕事の流れ ①プレゼンテーションに必要な知識 ②実務に必要な知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①②の予習				
5	試験対策-1 ①1次過去問題 予想問題の繰り返し			方法：過去問題から抜粋し小テストで理解度の確認。重要章を徹底して、合格点ラインまでもっていく 解答→解説を行う。				
6	試験対策-2 ①単元毎に穴埋め問題を課題とする			自宅学習を定着し、暗記の繰り返しで難関資格をめざす方法：過去問題から抜粋し小テストで理解度の確認。自宅学習を定着し、暗記の繰り返しで難関資格をめざす 解答→解説を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
授業での取り組み姿勢、課題の提出、テストで評価 授業態度、努力40%、テスト20% 課題提出30% 出席日数10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に臨みます。インテリアコーディネーター学科試験でも出題する分野を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。				
実務経験教員の経歴 店舗、住宅等の内装業務全般に20年携わる。								

科目名 インテリア演習 I								
担当教員		清水 彩子		実務授業の有無		○		
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年		2	開講時期		後期
必修・選択		必修	単位数			時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通してインテリアコーディネーター資格の取得を目指す。2次試験対策のため、ロールプレイングやプレゼンテーションなど実務対策も強化する。 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する。 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する。 3. インテリアコーディネーター資格試験対策。 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで習熟度を上げる。						
学習目標 (到達目標)		①資格取得をめざす ②ロールプレイングから、実務に対応できる知識を習得						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーター公式テキスト上、下巻 ②過去問題集 上、下巻 2次試験対策問題集						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	1次試験重要ポイントの徹底 ①テキストの重要章の確認 ②得意分野を伸ばす			方法：1次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、演習問題を行い、知識の定着を図る。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し繰り返し、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習				
2	過去問題、予想問題の繰り返し ①時間配分の対策 ②苦手分野への対策			方法：1次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、演習問題を行い、知識の定着を図る。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し繰り返し、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習				
3	プレゼンテーション技術の習得 ①ロールプレイングによる仕事の多様性の理解			方法：1次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、実務の演習課題を行い、ロールプレイングで修練する。各分野とも、次週に定着確認テストを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し繰り返し、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習				
4	模擬試験 ①結果分析と直前アドバイス			方法：1次試験、各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、模擬試験を行い、結果に応じて対策とアドバイスをを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し繰り返し、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
授業での態度、努力を重視。後期はテストの点数も評価。 授業態度50%、テスト結果30% プレゼンテーション10% 出席日数10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				後半はロールプレイングで楽しく、実務直結の授業を。資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に臨みます。インテリアコーディネーター学科試験でも出題する分野を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。				
実務経験教員の経歴 店舗、住宅等の内装業務全般に20年携わる。								

科目名 インテリア演習 II								
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無		○		
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年		2	開講時期		前期
必修・選択		必修	単位数			時間数		48時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通してインテリアコーディネーター資格の取得を目指す 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する。 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する。 3. インテリアコーディネーター資格試験対策。 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで習熟度を上げる。						
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーター資格試験合格に向けての対策講座です。重要キーワードの解説と問題演習を行い合格へ向けて、知識を高めます。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーターハンドブック上・下、 ②インテリアコーディネーター一次試験過去問題集上・下						
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	第1章 インテリアコーディネーターの誕生とその背景・練習問題・過去問題			方法：各分野の出題傾向に基づいてポイントを解説、演習問題を行い、知識の定着を図る。各分野とも、次週に定着確認テストを行う。 合格ラインの点数になるように、弱点等は繰り返し繰り返し、自宅学習も義務付ける。 準備学習：教科書①②の復習と過去問題の自己学習				
2	第2章 インテリアコーディネーターの仕事・練習問題・過去問題							
3	確認テスト①							
4	第3章 インテリアの歴史 日本 練習問題・過去問題							
5	第3章 インテリアの歴史 西洋 練習問題・過去問題							
6	確認テスト②							
7	第5章 インテリアエレメント (家具) 練習問題・過去問題							
8	第5章 インテリアエレメント (造作部材) 練習問題・過去問題							
9	確認テスト③							
10	第6章 インテリアエレメント (ウィンドー・カーテン) 練習問題・過去問題							
11	第5章 インテリアエレメント (カーペット) 練習問題・過去問題							
12	確認テスト④							
13	第5章 関連エレメント 練習問題・過去問題							
14	第5章 関連エレメント練習問題・過去問題							
15	確認テスト④							
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
日頃の授業に対する取り組み姿勢や、定着テストでの成績を決定します。 確認テスト45%、課題45%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に臨みます。インテリアコーディネーター学科試験でも出題する分野を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。				
実務経験教員の経歴 インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる。								